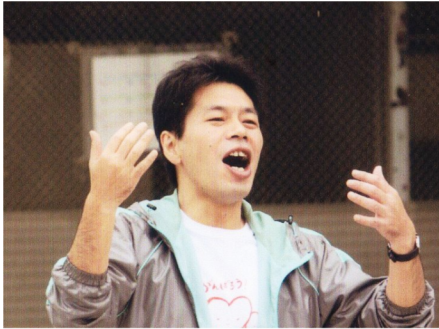


地域での活動

教育や地域の活動への参加を通して、現場からの視点で「区政をどうすればよいか」を考える一助となっています。

小学校でのゲストティーチャー

- 運動会に向けた「よさこいソーラン節(踊り)」の指導(平成16年～)
- 6年生向け社会科授業(平成27年)



運動会に向けた授業の様子

知的障害児・者へのスポーツ指導

- スペシャルオリンピックス・バレーボール・プログラムへの参加(平成18年～。平成19年から主任コーチ。)



昨年いただいた功勞表彰

PTA等の活動

- 幼稚園チーム・パパ(親父の会)(平成18年～26年)
- 小学校での読み聞かせ(平成21年～)
- 小学校・学校に泊まろう会(平成22年～。平成23年から実行委員長。)
- 小学校放課後子ども教室でのバレーボール指導(平成22年～25年)



幼稚園チーム・パパでの活動
(ニジマスつかみ取り)



「学校に泊まろう会」での活動
(子供達がテントで就寝中の、朝4:30の校庭)

子供達への踊りの指導

- 地域の子供達に「よさこいソーラン節(踊り)」の指導(平成15年～25年)

防犯活動、地域イベント等

- 防犯自主団体や美・道路組(道路沿いの花壇の美化活動を実施)の一員として活動
- 自転車放置防止協力員
- 富士見丘節分祭や久我山ホテル祭りにスタッフとして参加
- インターン生(大学生4名・社会人1名)の受入れ

皆様への広報活動

今期も、下記を通じて皆様に区政の状況をご報告させていただきました。

- ◆ 議会開催毎に区政報告書発行(年4回。要約版は年2回。)
- ◆ 定期的に「区政に関する意見交換会」を開催(毎年4回)
- ◆ ホームページで毎日情報発信
- ◆ メールマガジンを毎月発行(平成27年2月段階で118号)

区政や岩田いくまに対する質問・ご意見・ご要望をおきかせください。

FAX: 03-3247-8660 もしくは E-Mail: ikuma@gakushikai.jp



杉並区議会議員(無所属) 岩田いくま 区政報告

第46号(平成27年春号)

発行: 岩田いくま 〒168-0082 杉並区久我山5-24-30-103
TEL/FAX: 03-3247-8660 E-Mail: ikuma@gakushikai.jp
HP: http://ikuma-iwata.net (←毎日更新しています!)

岩田いくま(生真)略歴: 昭和46年(1971年)生。都立西高、東京大学卒。外資系コンサルティング会社勤務を経て、平成15年5月より杉並区議会議員。平成23年5月より3期目。
趣味: バレーボール(大学時代は母校で部活動のコーチを行う)、読書。
家族: 妻、長男(12歳)、長女(9歳)、二男(7歳)。

「是々非々」での議会活動 ～ 今期(4年間)の活動を振り返る ～

杉並区一般会計の「当初予算」及び「決算」に対する審査には、区政の全体像に対する判断が求められます。この審査は任期中に8回ありました。

<岩田いくまの賛否>

審議年度	審査対象	賛否	主な理由
平成23年度	平成22年度決算	賛成	財政悪化の兆しが見えるも、前区長が策定した予算を着実に執行し、かつ緊急を要する課題に対応してきたため
	平成24年度予算	反対	平成22年に策定した減税基金条例を、区長選公約に反し、わずか2年で廃止提案がなされたため
平成24年度	平成23年度決算	賛成	施策レベルで見解の相違はあるものの、決算収支及び各指標とも概ね評価できたため
	平成25年度予算	反対	財政悪化傾向が顕著であり、かつ施設再編整備計画の策定が先送りされたため
平成25年度	平成24年度決算	反対	新たな総合計画(10年計画)初年度にもかかわらず、施策の7割が目標を未達成であり、財政運営上の指標も悪化していたため
	平成26年度予算	反対	3ヶ月後に区長選を控えているにもかかわらず、新区長の政策裁量の余地が乏しい予算だったため
平成26年度	平成25年度決算	賛成	施策目標の達成状況及び財政運営上の指標について、前年度より改善が見られたため
	平成27年度予算	賛成	借金返済が新たな借金を上回り、財政調整基金(貯金)の取り崩しを行わない等、健全財政に努める姿勢が見えるため

議会全体でみると、現任期(平成23年5月～現在)を通して在籍する議員42名(*1)中、「毎回賛成の議員: 29名」、「毎回反対の議員: 10名」、「是々非々の議員: (私を含めて) 3名」となります(*2)。議員の仕事は単なる「追認」や「批判」ではありません。



今後も区民の皆さんのご意見をお聞きしながら、より良い杉並区を目指して「是々非々」で区政に取り組んでいきたいと思っています。

(*1)任期当初48名中、2名がご逝去、4名が他選挙の出馬に伴い失職。

(*2)欠席した場合は除いています。



公約(平成23年区議選)の達成度

岩田いくまの公約	達成度	杉並区の実績(例)
教育・子育て		
地域による学校支援の拡充	○	地域運営学校数: 13校(平成22年度)⇒27校(平成26年度) 民間事業者による部活動支援(平成25年度～)
幼児教育・保育の充実	○	保育定員: 6, 178人(平成22年度)⇒8, 950人(平成27年度予定) 幼保小接続カリキュラム・連携プログラム策定(平成25年度) 「(仮称)就学前教育支援センター構想」検討(平成27年度予定)
異世代交流機会の拡大	○	特定年齢層向け施設を、多世代が利用できる施設へと転用する方針策定(平成25年度) 高齢者施設と保育園の複合施設を開所(平成25年度)
医療・介護		
在宅医療・在宅介護支援体制の充実		
総合相談窓口の設置	○	在宅医療相談調整窓口の設置(平成23年度)
地域におけるチーム医療体制の構築	○	在宅医療推進協議会の開催(平成23年度～) 医療と介護の連携「すぎなみガイドライン」作成(平成25年度) 医師をリーダーとした「在宅医療地域ケア会議」を7地域で開催(平成27年度予定)
救急医療対応力の強化	○	二次救急指定病院の増(平成26年度) 杉並区民レスキュー登録者数: 1, 757人(平成22年度)⇒2, 417人(平成25年度)
地域活性化		
参加しやすい共助社会の構築		
電子地域通貨事業の着実な推進	×	2年間検討を重ねるも、導入に向けた協議を中止(平成24年度)
生活交通の確保		
新たなコミュニティバス等の検討	○	新たな地域交通システムの調査・検討(平成24年度～) 施設間巡回車両等の調査・研究(平成27年度予定) 佼成病院を起終点とする新たなバス路線の開通(平成26年度)
スポーツ環境の整備	○	新・大宮前体育館の開館(平成26年度)、妙正寺体育館の改築(平成28年度完了予定) 都立学校体育施設開放事業に関する協定締結(平成26年度) 旧永福南小学校跡地にビーチスポーツもできる屋外広場を整備(予定)
財政規律		
財政収支の黒字化堅持	×	区債残高: 165億円(平成22年度)⇒231億円(平成26年度決算見込) 基金(貯金)残高: 370億円(平成22年度)⇒419億円(平成26年度決算見込) 区債残高増(66億円) > 基金残高増(49億円)
民間との役割分担の再整理	○	協働提案制度の実施(平成25年度～) 専門定型業務(国保年金業務等)の民間委託推進(平成27年度～予定)
議会改革		
議会基本条例の制定	△	平成23年度に議会改革特別委員会を設置するも、未だ検討中
議会による議決事項の追加	×	平成23年12月の議会改革特別委員会において、反対多数で頓挫



本会議における8回の一般質問や、予算／決算委員会での質疑等を通して、公約の実現を目指してきました。その他、前任期(平成19年～23年)での提案が実現した主な政策としては、

- ◆ 自治体間連携による、**交流自治体での杉並区民向け高齢者施設の整備**(平成19年6月に提案。平成26年12月に静岡県及び南伊豆町と基本合意書を締結。)
- ◆ **電力購入での入札実施**(平成20年2月に提案。平成24年5月に実施。)

等があげられます。一方、議会改革では、上記の他に、

- ◆ **議員定数の2名削減**(平成26年12月)
- ◆ 政務活動費の使途に、**酒類が提供される会合への支出を認めることに反対**(平成25年2月)に取組みましたが、いずれも賛同者が少なく、残念ながら実現できませんでした。



教育こそ政治の根本

未来をつくるのは、今の、そしてこれからの子供達です。

親世代として、**地域ぐるみで教育を担う仕組みづくり**に率先して取り組みます。

- 地域による学校支援のさらなる拡充
 - 授業等への地域人材の活用推進
 - 放課後・休日における多様な学びの場の設置
- 全ての世代が使える学校づくり(学校施設の有効活用)
- 保育施設及び子育て交流拠点の拡充

次世代に負担を先送りしない

私達の責任は、「いい世の中」を子供達に引き継ぐことであり、決して「多大な借金」を引き継いではなりません。次世代への責任、**未来への責任として、健全財政を堅持**することは最低限の責務です。

- 財政収支の黒字化堅持
- 区立施設の複合化・多機能化
- 複数業務の一括委託等、民間の創意工夫を活かす民間委託の推進

つながりのある医療・介護(予防⇔在宅療養⇔施設の連続性確保)

必要な医療・介護は、誰でも心身の状態の変化により異なってきます。

住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、**状況に適した医療・介護を在宅で受けられるようにするとともに、多様な施設整備を推進**します。

また、**予防医療の充実**に取組みます。

- 多職種連携による、医療・介護・予防・生活支援の一体的な提供
- 身近な健診拠点の拡充
- 区内及び近隣交流自治体での、特別養護老人ホーム等の整備

安全・安心まちづくり

何事もない日常こそ、かけがえのない日々の暮らしです。地域に根差した視点で、**災害や犯罪に強いまちづくり**を行っていきます。

- 豪雨水害対策の充実
- 倒れにくく燃えにくいまちづくりの推進
- 予防保全によるインフラ(道路・橋梁等)の維持管理
- 空き家対策／空き家の有効活用

新たな提案

